

米国防総省CAP(理事長ダイナー・コーエンさん)が、大統領クオリティー賞を受賞

米国防総省のCAP (Computer / Electronic Accommodations Program) が昨年12月4日に、2008年 Presidential Award of Management Excellence (管理優秀部門賞) である President's Quality Award (大統領クオリティー賞) を受賞した。

CAPは最高の科学技術を駆使して、最重度のチャレンジド (障害のある人を表す米語) までも政府機関や企業に送り出し、チャレンジド雇用促進に貢献してきた。弊誌でたびたび取り上げてきたが、神戸にある社会福祉法人プロップ・ステーションとともにユニバーサル社会の実現に向け、協力関係にある。

大統領クオリティー賞は、優れたマネジメントを行った政府執行部局に授与される最も高位の賞。政府が管理運営について掲げる5つの構想 (人材の戦略的管理、競争力のある部品調達、財務実績の改善、電子政府の拡充、予算と実績の調和) において模範となった部署を称えるもので、CAPは電子政府の拡充のカテゴリーでの受賞者である。

1990年にプロジェクトが始まってから、視覚、聴覚、手先の器用さ、コミュニケーション、外傷性脳損傷を含む認知の障



昨年3月開催の『ユニバーサル社会の実現をめざすシンポジウム』で講演するコーエン理事長

害を持つ連邦政府職員、戦傷を負った軍人に対し、7万1,000以上の要請に応じてきた。また、軍事や防衛関連の機関だけでなく、65の連邦政府機関と連携している。2008年度では、軍人やWalter ReedやBrooke陸軍医療センターを含む国内の軍人治療施設に4,500以上の便宜を提供。障害を持つ退役軍人

の再就職を支援し、退役軍人のヒーロー雇用キャリアフェアにも参加している。

プロップ・ステーションの竹中ナミ理事長は、「私の最も尊敬する友人の一人であるダイナーさんは、昨年3月にプロップ・ステーションと読売新聞社の共催で開催した『ユニバーサル社会の実現をめざすシンポジウム』で来日し、有意義な講演で、出席したすべての方々には大きな感銘を与えてくださいました。一人でも多くのチャレンジドが『働く誇り』を取り戻していけるよう、これからも力を合わせてがんばっていきましょう」と、受賞を喜ぶメッセージを発表した。